中学生でも解ける東大大学院入試問題 (68)

2014-12-23 11:33:25

こんにちは。東久留米市の学習塾塾長です。

昨日より気温は若干低いのですが、晴れていて良い天気です。暫く晴れの日が続き週末崩れるようですが、大晦日、元旦は晴れになるとT V の天気予報で言っていました。先のことなので当たるか外れるか分かりませんけれども。

さて、今回は平成25年度東大大学院工学系研究科システム創成学の入試問題です。

問題は、

「次の式に当てはまる整数α、b、cを求めよ。

 $6 \div 11 = \frac{1}{1} + \frac{1}{1} \times \frac{1}{1}$

ただし、c>a>0 かつ c>b>0 である。」です。

整数の不定方程式では、1つの変数の候補を見つけ、それらの候補について場合分けして他の変数を見つけていきます。そして、本間のようなある分数を単位分数の和に直す問題では、単位分数の取り得る範囲を求め、変数の1つを絞り込むのが常套手段です。

まず、与式を整理すると、 6/1 1 = 1 / a + 1/b c (1) となります。

ここで、1/a と1/b c とでどちらが大きい値を取るか調べます。条件にあるように、a 、b 、c は正の整数(a \geq 1 、b \geq 1 、c \geq a > 0 なので、これにb を掛けると、

b c > a b≧a となるので、

1/a > 1/b c (2) です。

すると、(1) は、 $6/1 \ 1 = 1/\alpha + 1/b \ c \le 2/\alpha$ となり、 $6/1 \ 1 \le 2/\alpha$ 3/1 $1 \le 1/\alpha$ (3)

(3)を変形して、

 $a \le 1 \ 1 / 3 < 4$

なので、aの候補は、1、2、3となります。

あとはαについて場合分けすればOKです。

a = 1 のとき、(1) は、 6/1 1 = 1 + 1/b c 1/b c = - 5/1 1

より、これを満たす正の整数 b、 c はなく、したがって、 a ≠ 1 となります。

a = 3のとき、(1)は、 6/1 1 = 1/3 + 1/b c 7/3 3 = 1/b c

より、これを満たす正の整数b、cはなく、したがって、a≠3となります。

以上をまとめると、 $\alpha = 2$ 、b = 1、c = 2 2

a = 2、b = 2、c = 1 1 が答えになります。

念のため、検算してみると、 $\alpha=2$ 、b=1、c=22の場合、 $1/2+1/1\times1/2$ 2=11/22+1/22=12/22=6/11

また、a=2、b=2、c=11の場合、 1/2+1/2×1/11=11/22+1/22 = 12/22 = 6/11

とどちらも与式を満たします。

このように整数の不定方程式の問題では、多くの場合、1つの変数の候補を有限個に絞ることができれば、あとは場合分けで解くことができます。その変数の絞り込みかたはいくつかのパターンがありますが、本間の絞り込みかたは代表的なパターンなので覚えておくと良いでしょう。

東久留米の学習塾 学研CAIスクール 東久留米滝山校

http://caitakiyama.jimdo.com/

TEL 042-472-5533